

平成 23 年度活動報告

昨年を振り返ってみますと、世界中が大きな自然災害の影響を受けた年でありました。

その中でも 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、多くの尊い人命・先祖代々から受け継がれてきた地域の文化を始め、その地に育まれた農業・漁業・商業・工業などが多岐にわたって破壊され、個人的な財産を始め、社会の経済をけん引してきた企業などが一瞬のうちに失われてしまいました。さらに、この震災では想定外と言われた大きな津波により原子力発電所をも破壊されてしまい、このことにより、世界各国が自国の電力エネルギーについて、環境を含めた安全性、経済性などの面で、どのような進路を求めたらよいかの検討を始めたところであると思います。

私達は東日本大震災で学んだ「人と人の絆」・「地域と地域との絆」が如何に大切かをテレビ・ラジオの報道・新聞等で繰り返し学ぶことができました。

この度の震災は大変不幸な出来事でしたが、希望の持てる明るいニュースもありました。

当時、諸外国の記者が我が国の悲惨な状況を自国へ報道する中で「日本国民は自分の生命の危険を顧みず、他人を助け規律を守って行動できる崇高で冷静沈着な国民」であるとの「日本人観」の報道が多々ありました。私達日本人が持ち続けてきた「誇り」を確認することが出来た大切な報道であったと思います。

この様な事を踏まえて、ここに自治会連合会の 23 年度活動報告を申し上げます。

1、 地域のつながりの取り組み

(1) 登下校時の学童見守り活動

- ・ 多くの自治会で、近隣の小学校の登校・下校時の見守り活動を、各種団体と協力し実施しました。

(2) “青パト”等の防犯活動の協力

- ・ 現在、自治会やコミュニティ組織で、青色防犯パトロールカーを運行し、防犯・防災・交通安全のパトロール活動を積極的に実施。

(3) 学校と自治会と地域住民の合同防災訓練

- ・ 8 月 28 日拝島第三小学校で実施された昭島市総合防災訓練を自治連の 11 ブロックの自治会が中心になり参加し、訓練を学校と共々に実体験しました。
- ・ 9 月 10 日拝島第二小学校の児童への防災訓練に、自治会(12.13.18 ブロック)も参加し共に訓練を実施しました。

(4) 防災指導部会等による防災教育と訓練

- ・ 昭島防火協会防災指導部会(消防署・行政・自治連の合同)を年 3 回開催し、地域防災力アップの協議をしました。
- ・ 単一自治会や合同の防災訓練を 72 の自治会が実施し 5,600 人が参加しました。

- ・ 11月11日昭島消防署開催の「防災の集い」に参加しました。
- ・ 秋の火災予防運動期間に11自治会を対象に一般住宅の防災診断があり協力しました。
- ・ 住宅用火災警報器設置の活動を引き続き実施しました。現状は、戸建住宅89.1%、民間の共同住宅は87.9%、都営等の共同住宅は100%です。市内の設置率は90.8%で昨年より7.3%向上しました。東京全体は80.6%(平成23年9月現在)です。
- ・ 年2度の普通救命講習会を開催し多くの自治会役員の皆さんに参加いただきました。
- ・ 12月4日東京消防学校で実施の「防災シンポジウム2011」に代表が参加しました。
- ・ 昭島市自治連が、昭島消防署・防火防災協会指導部会と一体となって、災害の未然防止と被害の抑止をテーマとして消防機関に協力してきました。これをベースに联合会皆様の意識の高揚に努めてきました。
- ・ 火災による死者ゼロが3,432日の記録達成で終了しました。

(5) 交通安全運動と自転車マナー教室の実施

- ・ 地域の交通安全協会の支部と連携を取り、老人会等の集いの際、交通マナーやルールについて周知徹底を行なっています。
- ・ 春と秋の全国交通安全運動週間中、啓発ポスターの掲示や自治会広報や回覧等を活用し交通安全を訴えました。

2、生活環境の整備促進

資源回収を実施している自治会も多く、ごみ減量化や資源を大切にするリサイクル活動に行政と協働で資源回収を実施し、快適で住み良いまちにするために活動しました。

(1) ごみを出さない(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、再利用する(リサイクル)の“3R活動”の推進

- ・ 7月14日実施の自治会長研修会で、環境コミュニケーションセンターの施設の見学と3Rを学習しました。
- ・ 夏祭りや餅つき大会等の行事の際、参加者に3R運動啓発を呼びかけました。
- ・ 昭島のあすを創る協議会主催「家庭用品バザー」の品物提供を自治会員へ呼びかけ、4,500品以上の品物が集まり643,250円の売上がありました。3月に社会福祉協議会に260,000円寄付させていただきました。

(2) 多摩川のクリーン作戦への参加

- ・ 昭島のあすを創る協議会主催の「多摩川クリーン作戦」が5月8日実施され、各自治会から大勢の方に参加していただき多摩川の河川敷の一斉清掃を行ないました。また、玉川上水の周辺も同日実施しました。

(3) 美しいまちづくりの推進

- ・ 5月30日(ごみゼロ)前後1週間で、あきしま街なみクリーンアクション実行委員会主催の「市内クリーン運動」が各自治会と各種団体の協力で実施され、例年以上の参加者でした。市内の歩行者道路等、定期的な清掃活動も各自治会で実施しています。

- ・ 11月8日産業まつりの際、「喫煙マナーアップキャンペーン」を実施しました。

(4) 環境コミュニケーションセンター活用支援

- ・ 7月14日実施の自治会長研修会の際、3月にオープンしたセンターを見学し、ごみの減量に対する意識高揚を図りました。その後、自治会でも見学会等を実施して多くの自治会員にセンター活用方法をPRしました。

3、自治会加入率向上促進と活性化

(1) 未加入世帯に加入推進活動

- ・ 8月7日(株)昭和飛行機の敷地内で開催された「東北地方・岩泉町復興支援フェスティバル」の会場で、加入促進のPR活動を実施しました。
- ・ 単一自治会単位に加入促進週間を設け、防災訓練等の自治会行事へのお誘いを日常的に実施し加入推進を図りました。
- ・ 加入促進用チラシや自治連の広報を作成し、未加入世帯用に単一自治会の支援として活用していただきました。

(2) 自治会活性化事業に対する支援活動参画

- ・ 昨年に引き続き、都の「地域の底力再生事業助成」制度を自治連と11のブロックや自治会が活用し、積極的に地域の活性化に取り組みました。

[自治連の事業名：「イザの時」の地域防災リーダーの育成とリーダーの見分け対策]

- ・ 昭島市の「地域がんばれ・立ち上がれ再生事業補助金制度」が開始しました。

(3) 自治連ホームページの運用と活用推進

- ・ 平成23年3月にスタートし、50を超える自治会が各種自治活動の様態をホームページに投稿しています。自治連としても1年間で98回の情報の掲載をしました。運用は、自治連の広報委員会と5名のボランティアで行なっております。
- ・ 毎月開催の自治連の常任委員会の議事概要をタイムリーに掲載し、自治連活動内容の公開と情報のスピードアップに努力しました。
- ・ 単一自治会のブログ担当者向けの個別の講習会を8回実施し、11月12日に勤労商工市民センターにてブログ担当者全体会を開催しました。

(4) 自治会ハンドブックの活用

- ・ 平成23年3月に40ページの冊子を作成し自治会に配布し、23年度から活用いただきました。内容は、自治連ホームページからダウンロード可能となっております。

(5) 会報の内容を充実し、自治連会報と自治連だよりを発行

- ・ 自治連の活動内容を、タイムリーにお伝えするため、23年度は「自治連だより」を8月、11月、3月に新規にA4サイズ裏表印刷で3回発行しました。
- ・ 従来の広報「あきしま市自治連会報」は1月号のみとし、特集テーマを『取り戻そう！地域の絆』として自治会連合会の活動状況をまとめ30,000部発行しました。

(6) 行政と協働しスポーツ大会の開催

- ・ 10月に市民体育大会の一環としてのブロック別運動会を12,127人が参加し開催。
- ・ 2月5日に「昭島市自治会ブロック・事業所等交流綱引き大会」が実施され、男子、女子ともに16ブロックが優勝しました。
- ・ 平成25年度国体の昭島市としてオープニングで実施予定の『インドアペタンク』教室を3月4日自治会役員対象に開催し、ルールと競技手順を学びました。

4、 青少年とともにあゆむ地域づくり

(1) スポーツや音楽活動を通して青少年の健全育成の支援活動

- ・ 春のスポーツ大会・青少年フェスティバル等のウイズユースの諸行事への参加協力し交流しました。

(2) 公民館と協力し生涯学習への支援

- ・ 自治連からも役員が会議に出席し、公民館の運用と、生涯学習の推進に協力しました。

(3) 地域の学校等との各種行事への総合協力

- ・ 地元の小・中学校の入学式、卒業式、運動会、学習発表会、公開授業、記念式典等、各種行事に自治会役員が参加し協力しました。

(4) 子ども会への支援と協力

- ・ 自治会によって取り組み度合いは異なりますが、資源回収や子ども会行事に協力しました。

5、 地域福祉事業への参加

(1) 社会福祉協議会が主催する各種委員会への参画と事業への参加

- ・ 東日本大震災の義援金・物資の担当窓口として協力しました。
- ・ 協議会の理事会評議委員会に出席し、募金活動にも協力推進しました。
- ・ 3月の防災ボランティアセンター立ち上げ訓練に参画しました。

(2) 昭島のあすを創る協議会への参画

- ・ 協議会事業の多摩川一斉清掃、家庭用品バザーの品物調達、運営等に協力しました。
- ・ 門松ステッカーの作成、配布に協力しました。
- ・ 2月に昭島市の「環境コミュニケーションセンター」「IH|そらの未来館」、立川市の「国立極地研究所 南極・北極科学館」の3つの施設見学に参加しました。

(3) 赤十字奉仕団への協力

- ・ 10月20日に昭島市赤十字奉仕団創立40周年記念式典に出席しました。
- ・ 日常活動への協力。

6、 防災・減災対策への取り組み

自治連の常設委員会の“研修・防災委員会”として、東日本大震災後、積極的に防災に対して取り組みました。

(1) 7月の自治会長研修時に“防災”の研修を行ないました

- ・ 環境コミュニティセンター見学後、玉川町の市民交流センターにて実施
 - ① 昭島消防署から被災直後の現地の模様の報告会
 - ② 市より家具転倒防止器具無償支給制度の説明
 - ③ 6月26日立川断層の講演会(自治連第17.19.20ブロック)の報告

(2) 自治連役員研修会で「原子力緊急時支援・研修センター」を視察

- ・ 10月26日に茨城県ひたちなか市の「原子力緊急時支援・研修センター」に併設の「原子力オフサイトセンター」の施設内で見学と3つの施設の説明を受けました。原子力の災害に備えての情報と知識を学ぶ貴重な機会となりました。

(3) 自治連としての“防災ヘルメット”を作製・配布

- ・ “イザの時”の防災リーダーを見分ける為に、都の補助金を活用し、各自治会の自主防災リーダー(自治会長等)へ全市共通の防災用ヘルメットを270個配布しました。

(4) 自治連主催の「防災リーダー研修会」を実施

- ・ 2月11日市民会館大ホールにて「近助の精神・防災隣組」の提唱者の山村武彦氏による『自主防災組織はイザの時の為に、平常時に何をすべきか』とのテーマで講演会を実施しました。また、当日の講演内容をまとめ全自治会に配布いたしました。

(5) 立川防災館での各種防災研修会に参加

- 2月10日「防災市民組織リーダー研修会」(東京都主催)
- 3月17日「市民防災研修会」(昭島市主催)
- 3月21日「長周期地震動等に対する室内安全セミナー」(東京消防庁主催)

7、 行政との地域懇談会を実施

自治会地域懇談会を、今年度はブロック長、副ブロック長に参加いただき、11月8日に開催し、下記内容について意見交換しました。(詳細は自治連会報1月号を参照ください)

議題1：現在の昭島市の財政状況について

議題2：地域コミュニティ全般の捉え方

- ① 活動拠点づくり
- ② 自治会・学区・防災等、各種団体の地域割りの統一

議題3：緊急時における個人情報の開示

- ① 災害時要援護者名簿の配布先と活用法
- ② 自主防災のリーダーの育成
- ③ 行政と自治会連合会との防災協議会の開催

議題4：地域開発や地域環境変化の情報の早期周知

8、 近隣他自治会連合会との交流

今年度も立川市自治会連合会との連絡協議会を2月23日に立川で開催しました。

両市からお互いに抱えている課題である、防災に関わる対策について／加入促進活動について／来年度の事業計画について等を紹介し合い、質疑応答を行ない意義ある交流会を実施しました。

平成 24 年度活動方針

東日本大震災をきっかけに、東京直下型地震の発生確率が「30 年以内 70%」と従来言われていましたが、今後短い期間内に発生する確率が高くなったと予測されています。

また、想定されている震度も従来の予測より高い数字が発表されています。

私たちは、近い将来東京直下型地震は発生すると考え、備えをしなければなりません。このような自然災害は、人間の力では止める事はできませんが、災害による被害は、私たちの日頃の努力により減少することが出来ます。

自治会連合会としては「減災活動」を強化し、取り戻そう！地域の絆を合言葉に、自助・共助の体制づくりを進め、安全・安心まちづくりを進めてまいります。

前年度より継続して地域活動の拠点づくり、自治会区と学校区の改善、住民の避難所としての学校の防災機能の強化等、中長期的に取り組むべき地域課題に関し行政と話し合いの場を設け問題の共有化を図り検討を進めてまいります。

平成 24 年度事業計画

1、安全・安心まちづくりへの取り組み

地域住民が安全・安心に生活でき、住民同士のつながりを深め、防犯、防災、交通安全について活動してまいります。

- ① 防犯支部活動の充実と防犯パトロールの実施、青色防犯パトロールカーによる防犯活動の協力
- ② 登下校時の学童見守り活動の協力
- ③ 交通安全運動と高齢者等の事故防止教室の推進
- ④ 昭島市携帯メール情報サービスの登録推進
- ⑤ 住宅用防災機器設置、ならびに家具転倒防止と安全な部屋づくりの推進
- ⑥ 各家庭で避難場所や緊急時連絡方法を話し合う防災家族会議の普及

2、 自主防災組織の活性化と防災リーダーの育成

“共助の中核”でイザの時のために地域防災の要でもある自治会が平常時に何をすべきか等、防災活動に対し自治会が重要な位置づけになってきました。各自治会の自主防災組織の活性化と、行政や各種団体と話し合い、お互いの位置づけを明確にしながら進めます。

- ① 共助の必要性の啓発のための勉強会や防災訓練の実施、近隣の小中学校や周辺組織との連携と合同防災企画の推進
- ② 安否確認の仕組みづくりの為に防災隣組等の取り組み
- ③ 地域関連団体と自助・共助の取り組みの協議
- ④ 行政(公助)との防災会議の開催
- ⑤ 防災ボランティアセンター(社会福祉協議会)の立上げの協力と、自治会の役割と防災ボランティア活動

の理解のための勉強会の実施

⑥ 防火防災指導部会の充実と活動の推進

3、生活環境の整備促進

ゴミの減量化や資源を大切にすリサイクル活動に行政と協働し、快適で住み良いまちにするために活動いたします。

- ① 地域の資源回収活動の推進
- ② ゴミを出さない(リデュース)、繰り返して使う(リユース)、再利用する(リサイクル)“3R活動”の推進
- ③ 多摩川のクリーン作戦への参加
- ④ 市内クリーン運動(5/27~6/3)への参加
- ⑤ 昭島市エコ・パーク(環境コミュニケーションセンター)の活用と協力

4、自治会組織の活性化と未加入地域・世帯への加入促進

地域活動を通して誰でも気楽に参加でき、楽しく活動できる自治会づくりを目指し、未加入世帯も含めて自治会活動の内容をホームページや広報紙を活用し、理解していただけるよう取り組んでまいります。

- ① 加入促進推進週間(8月・11月)を設け、未加入地域や世帯に加入推進活動
- ② 自治会会員の継続と再加入の推進(加入率目標：5%アップ/年間)
- ③ 新規開発地域やマンション管理組合と交流し自治会づくりを推奨する
- ④ 自治連ホームページと自治会運営ハンドブックの活用
- ⑤ 自治連会報の充実とタイムリーな自治連だよりの発行
- ⑥ 回覧板や掲示板等の有効活用
- ⑦ 健康増進のため行政と協働し、ブロック別運動会の開催や「昭島チャレンジデー2012」(5月30日予定)の参画
- ⑧ 東京都地域の底力再生事業助成と昭島市地域がんばれ・立ち上がり事業助成金制度の活用支援

5、青少年とともにあゆむ地域づくり

地域の子どもたちが心身ともに健康でたくましく成長してもらうために、学校、家庭、地域団体、自治会が一体となってよりよい環境づくりを目指し活動してまいります。

- ① スポーツや音楽活動等を通して青少年の健全育成の支援活動
- ② 公民館等と協力し、生涯学習への支援
- ③ 地域の小中学校等の各種行事への相互協力
- ④ 子ども会、ウイズユースへの支援と協力

6、地域福祉事業への参加

地域に生活する方々に福祉活動を通じ、地域との温かいつながり(絆)を強める活動を関係団体と協働して

まいります。

- ① 見守りネットワーク活動の推進
- ② 老人クラブの未結成地域を無くしていく活動の協力
- ③ 社会福祉協議会主催の各種委員会への参画と事業への参加
- ④ 昭島のを創る協議会への参画
- ⑤ 昭島赤十字奉仕団との連携と協力
- ⑥ 民生委員・児童委員への相互協力
- ⑦ 医療機関等と連携しての健康講座の協力

7、各種団体との交流と今後の自治会連合会の組織の検討

自治会と関係する各種団体との交流を通じ、お互い抱えている課題について意見交換してまいります。

- ① 立川市自治会連合会との定期交流と近隣自治連との情報交換
- ② 地域コミュニティ組織との交流
 - ◎あきしま・街づくり市民会議・なかがみ
 - ◎市立武蔵野会館運営協議会
 - ◎まちづくり昭島北
- ③ 地域づくり交流会議の開催

下記の組織の代表の皆様と、地域の活性化と問題意識の共有を目指し、お互いを理解し今後の自治会連合会の活動の検討のため、自治会と関係する活動内容と諸団体のエリア分けの現状を把握してまいります。

- ◎ 昭島市老人クラブ連合会
 - ◎ 昭島市子ども会連絡会
 - ◎ 民生委員・児童委員
 - ◎ 昭島市消防団
 - ◎ 昭島防犯協会
 - ◎ 昭島交通安全協会
 - ◎ 市立小中学校／教育委員会
 - ◎ 昭島警察署
 - ◎ 昭島消防署
 - ◎ 昭島市商工会
- ④ 今後の自治会連合会の組織の検討

以上